

第1回（仮称）新石垣市立八重山博物館建設検討有識者会議（要旨）

- 日 時：令和3年5月21日（金）14:00～15:45
- 場 所：大濱信泉記念館多目的ホール
- 出席者：石垣会長、天久副会長、石垣委員、大城委員、小切間委員、翁長委員、親盛委員、高良委員、與那國委員
- 会議次第
 1. 委嘱状交付
 2. 教育長あいさつ
 3. 委員自己紹介
 4. 議事
 - (1) 議案第1号 会議の公開・非公開等について
 - (2) 議案第2号 会長及び副会長選出
 - (3) 報告第1号 新石垣市立八重山博物館（仮称）建設基本構想の概要説明
 - (4) 審議第1号 提言の論点の整理
 - (5) 審議第2号 今後の進め方について（会議スケジュール）
 - (6) その他
 5. 現博物館施設案内（博物館本館）
- 会議要旨

1. 委嘱状交付

・ ・ 石垣教育長より各委員へ委嘱状を手交 ・ ・

2. 教育長あいさつ

（石垣安志教育長）

けらんねーら、くよーなーら。きゅうや、でーじなあつさぬなかんが（仮称）新石垣市立八重山博物館建設検討有識者会議かいおーりとーり、しかいとうみーふあいゆー。

本当に皆様方には、日頃から石垣市教育行政をはじめ市政の各般にわたり、ご理解とご協力いただき、心から厚く感謝申し上げます。

ただいま、（仮称）新石垣市立八重山博物館建設検討有識者会議の委員として、ご委嘱させていただきました。新博物館建設は、本市教育委員会はもとより市政の重要なテーマとなっておりますので、委員皆様のお力添えを賜りますようよろしく願いいたします。

さて、現在の八重山博物館は、昭和47年の沖縄県祖国復帰の年に開館し、その後、沖縄県内2館目の登録博物館として登録され、今日まで49年間の長きにわたり、石垣島のみならず八重山全域を視野に、地域に根ざした地域とともに歩む博物館として活動を行ってまいりました。

その間、地域に残る歴史や民俗等の数多くの資料を収集・保管・研究するとともに、企画展示や講演会、体験講座を開催するなど、本市内外から多くの皆様に利用していただき、本市の文化の発展に寄与してきたところであります。

しかしながら、時間の経過とともに建物の狭隘さや施設の老朽化が大きな課題となっており、博物館活動が制約されている現状があります。特に建物の狭隘さに起因する収蔵庫の飽和状態と保管環境を一刻も早く改善する必要があり、良好

な状態で次世代に継承するためには、新博物館の早期建設が必要であると考えておりますので、委員の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

この後、第1回の会議を開催し、新石垣市立八重山博物館建設基本構想の概要や提言の論点整理等について、ご審議していただくこととなりますので、それぞれのお立場から忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、私のごあいさついたします。

本日は、最後まで、今日の会議が有意義な会議になるようよろしくお願いいたします。

3. 委員自己紹介

・各委員より自己紹介・

4. 議事

(1) 議案第1号 会議の公開・非公開等について

・事務局より資料に基づき説明・

(高良委員)

会議後にホームページで公開する予定とは、その日の会議で議論しあった内容の全てではなく議事の要旨をホームページで公開するということですか。

(事務局)

議事録に関して議事要旨でというご意見です。事務局としては議事録を起こしながら、公開は議事要旨で、ご意見の主旨を整理し公開したいと思っています。

(大城委員)

公開はマスコミや市民向けに事前に通知・案内して行いますか。

(事務局)

有識者会議は、公開していく考えですが、コロナの関係があるため会場が密にならない程度の公開をしてはどうかという考えです。

今日は、第1回目の会議のため市民の皆さんへの広報はされていません。それでも市民の皆さん来ていますので、会場に入れる数はマスコミを含めて10名程度での公開を考えています。

(天久委員)

私も公開という立場です。市民に開かれた会議は重要なことですので、公開することによって市民の知る権利を保つ必要があります。

ただ、会場の人数制限については、新型コロナの感染予防の観点からやむを得ないと考えています。

(翁長委員)

私は、コロナの状況下のため案2の条件付き公開がよいと思います。

(與那國委員)

博物館建設に市民の注目が高まっていますので、案2の条件付き公開でいきたいです。

(事務局)

案2の条件付きの公開、コロナの関係もあるためマスコミを含めて10名で公開という形で制限いたします。

傍聴希望者の方が待機していますので、制限の範囲内で入場させます。

(2) 議案第2号 会長及び副会長選出

・・会長に石垣博孝委員、副会長に天久朝市委員を選出・・

(会長あいさつ)

八重山博物館ができたのは、日本復帰の時ですので、博物館が八重山でどんなものであったかをお話しします。

博物館は、人間が築いてきた歴史資料の保管や展示を行うところですが、それを、どういうところに作ればいいのかということを検討していなかった。そもそも我々がごく当たり前に考えることは歴史資料、民俗資料等を保管するところから、最も避けなければならないのは、津波が来た時に海拔ゼロメートルに近いところに博物館を作るといことはどうなのかということであったわけです。

そのため、次はより理想的なところに作ったらどうかということによって、私たちも一緒になって博物館の適当な場所を探すことになりました。やはり津波が絶対に来ないところということで、バナナの麓辺りと空港の移転予定があった国指定のフルスト原遺跡の周辺の空港跡地ではないかと検討しましたが、これをまだ抱えたままです。

これから、皆さんの知恵も拝借して、より望ましいところへより望ましい博物館作っていきたいと考えています。

(3) 報告第1号 新石垣市立八重山博物館(仮称)建設基本構想の概要説明

(会長)

新石垣市立八重山博物館、これはまだできていないから新と言いますが、できた博物館には新という言葉は使いたくない。新という言葉はあたらないので取り去っていただきたいと思います。

この博物館は、これまで2回大きな会議を持ちまして、今度3回目ですので、これを早めに実行できるようなものにしたいと考えています。

建設基本構想の概要について事務局から説明してください。

・・事務局より資料に基づき説明・・

(会長)

事務局の説明は終わりました。ご質問、ご意見等がありましたら、どうぞ。

(高良委員)

今の説明の中で、これまでどのような議論がなされて、理念や方針、機能を含めてどのような博物館にしたいという考え方が整理されています。同時に、望ましい博物館像を描いて、その博物館をどこに位置すべきかという立地が全く取り上げられていないがそれはどうしてですか。あるいは、具体的にどういう条件を備えた場所で新たな博物館を作るべきだという議論はなされなかったのか。

(事務局)

委員からどういう条件かという場所の話ですが、平成7年に議論が始まった段階でも高台という考え方があり、更に26年度の構想でも石垣島南部という考え方

があり、これまで議論されてきた場所がバナナ公園の麓にある万勢岳の下のところの案と、フルスト原遺跡近くの旧空港跡地という案、この2案が具体的に示されています。しかし、26年度の構想においてもその場所について議論がなされてきたという記載に留まっております。場所の最終的な決定については、今後、基本計画で行われるものと考えていまして、これまで議論にあがった場所は、案としてあがってくるという認識です。

(與那國委員)

素晴らしい理念と構想ではありますが、敷地面積など頭の中で想像しながら聞いています。面積や広さそういうものが示されていたら知りたいと思います。

(事務局)

この構想の中で面積については議論されていません。あくまで構想ですので、こういう博物館を作りたいという考え方の整理でありまして、敷地、駐車場、収蔵庫等の施設に関する議論は基本計画の中でされていくものと考えております。

(翁長委員)

先ほど事務局から1章から6章までの説明がありましたが、7章の管理運営の検討、建設候補地の条件、新博物館の施設整備に関する検討、整備スケジュールの検討などは、この会議の中で具体的に議論するという理解でよいでしょうか。

(事務局)

この有識者会議においては、望ましい博物館像のあり方ということで、石垣会長が委員長として作られた構想、これをブラッシュアップしながら、今の時代に合わせた形で皆さんが持っている思いも含めてご意見を出していただいて、それと構想を抱き合わせながら基本計画に入っていくということです。

基本計画の中で、スケジュールについて議論されるとしても、本会議においては、このあと審議していただく提言の論点の整理のところ、論点を絞ってご意見を賜りたいと考えております。

(高良委員)

確認の意味で、小切間部長に質問します。かつて八重山は大津波で大変な犠牲が出ており、石垣はその津波被害の詳細な記録を残している地域です。将来的に大津波という大規模自然災害を想定して安全なところに博物館を作るべきという議論があったと聞いていますが、その場合、私は博物館だけではなく市民生活を含めて考えるべきと理解しています。

実際に石垣の四カ字と呼ばれる中心部には桃林寺や様々な文化遺産があります。石垣市として将来の大規模な津波という自然災害に備えた災害に強い街のあり方、総合的な議論の中で博物館・美術館を位置付けて議論されているのか。それとも博物館のみ安全なところを目指すという議論になっているのか。その辺り市の総合計画や将来計画の流れとしてどうなのかお聞きしたいところです。

(小切間委員)

八重山地域に明和の大津波の時に遡上高30メートルに及ぶ大津波があったということで、市としても沿岸部の危険性は、非常に認識しております。そういったことがないようになるべく北の方へ上げていくというか、市民生活も含めてそういったレジリエンスを高めていくということを市としては考えてございます。

この博物館単体として貴重な色々な収蔵品を入れますので、それが水に浸からないように市全体としても当然のことながら市民が津波の被害をこうむらないように街づくりを進めていくことを考えています。

(大城委員)

13、14 ページの基本方針、基本的にこれに異議をはさむものではないですが、方針6の地域の資源をつなぐという機能を博物館が持つという中で、地元市民向け、地域向けの他に国際性というものをひとつ入れたらどうだろうかと思えます。

その辺りは高良先生が詳しいですけど、中国の地方、韓国済州島、あるいは台湾、もちろん太平洋地域もハワイも含めて博物館施設がありますので、国際性ということを明記した方がいいと思えます。これは次回以降の議論だと思えますが、そこだけ触れておきます。

(石垣委員)

私たちが博物館を考えるにあたって、石垣全体が博物館だという構想は結構ですが、博物館にはバスを停める広場が必要です。

そういう選定をするときには、津波のこともあるでしょうが、交通のことも考えていかねば、あまり功を奏しないのではないかと考えています。そういう意味でどこに作るかという議論によってはまた後でお話したいと思えます。

(4) 審議第1号 提言の論点の整理

(会長)

会議を進めていきたいと思えます。提言の論点の整理について事務局より説明をお願いします。

・ ・ 事務局より資料に基づき説明 ・ ・

(会長)

ご質問等ありますか。

(大城委員)

複数回にわたる会議がこれから予定されていますが、ここで論点の整理をして、この会議で議論する内容を決めようということですか。

それと、平成27年3月の基本構想書にあります第7章の部分はどのようにするのか。

(事務局)

そのとおりです。第7章の部分は、基本計画の段階になります。

(石垣委員)

有識者会議で基本構想を確認してどう活用するか、そこを考えていきたいと思えます。

(事務局)

構想を基本的に引き継ぎながら、あれから6年経ったところの今、求められている学校教育、観光、市民のアイデンティティなどのご意見をいただいた中で、これらと抱き合わせながら、次の基本計画に入っていきますので、その段階で具体的な場所や大きさの議論になります。

今は構想の基本理念等をベースに、石垣らしい・石垣にしかない博物館にするための意見をいただいて、それを次の基本計画に反映させるという考え方です。

論点をこの2点に整理していただければ、次回以降、基本理念や展示理念の論点の一つずつについて、踏み込んだ議論、提言をいただいて、それを提言書としてまとめて報告させていただくという形になります。

(高良委員)

石垣島、八重山地域は昔からアジアに開かれた交流のあった場所ですので、アジア性、国際性というものを地域、八重山のアイデンティティを大事にしながら、周辺の海外、外国につながっていく博物館という新しいコンセプトが必要だと思いますので強調しておきます。

石垣市立八重山博物館は、石垣島だけでなく八重山全域をカバーするコンセプトを持っているので、この基本構想では八重山の各島々を対象としています。

多くの島々からなる竹富町や離れたところにある与那国など、石垣とは立地条件が違う島々を含めて八重山という形で博物館を拠点施設とするときに、石垣島自体が博物館であると同時に、八重山にある特徴的な島や地域をつなぐネットワークの中に新しい八重山博物館が位置づけられるという論理も必要です。

もうひとつ、大規模な津波などの自然災害のリスクを避けるために博物館だけを安全なところには、市民は納得しないと思います。市民生活を守りながら博物館を、先祖代々築かれてきた遺産を守り、将来につないでいかなければならないと思いますので、街づくり全体の50年、100年かかるかもしれない長い計画の中に博物館を位置づけていくというコンセプトも必要ではないかと思います。

(石垣委員)

石垣市立八重山博物館という名前そのものが単に石垣島だけではなく八重山を網羅しており、その名前に表れていると思います。

そういう意味で、鳩間も波照間も与那国も八重山全体を集約できるような博物館にしていくという基本姿勢を持ってもらいたい。名に値する博物館であってほしいと思います。

(会長)

八重山文化というものを取り入れる場合は、石垣だけではないだろうということです。

(大城委員)

名称は非常に重要なもので、石垣市立八重山博物館とするのか、あるいは石垣市立八重山博物館・美術館とするのか、あるいは自然史博物館的なものも入れるのかどうか。そこの辺りが基本理念にも展示理念にも関係してくると思いますので、それを名称に表すかどうかを含めて検討していただけたらと思います。

(会長)

それでは、提言の論点の整理については、事務局提案の形でということを確認したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員)

・ ・ 拍手 ・ ・

(5) 審議第2号 今後の進め方について (会議スケジュール)

(会長)

これから3・4回程度会議を持つことになっていきますので、今後どういう形で進めるのか、事務局より説明をお願いします。

・・事務局より資料に基づき説明・・

(会長)

こんな形で進めてよろしいでしょうか。

(各委員)

・・拍手（異議なし）・・

(石垣委員)

要望があります。時間も経っていますが飲み物はないですか。自分で飲み物を持ってこいというなら持ってきますが。

発言の時はマスクを外してやれるような会議はできないものかと思います。

(事務局)

大濱信泉記念館のフロアの中では飲み物禁止ですので、準備はしましたが出せていません。次回以降に飲み物を飲める会場があれば、手配させていただきます。

マスクに関しては、コロナ感染症の関係もありますのでご理解いただきたいと思います。

(高良委員)

スケジュールは、基本的にこの方針でということですが、基本構想に新たな環境や状況の変化を付け加えたりすることもあるのかもしれませんが、スケジュールの中の議題やテーマが思い浮かばないです。

一番大事な問題は、どこに立地すべきかということで、それを将来議論することになると思いますが、例えば、博物館はどれぐらいの規模で、収蔵庫の面積はどうするのかといった具体的な事業方針であるとか、ソフトの部分に対応するためのハードの議論を概念的で構いませんが、その辺りのハードにつながっていく議論はスケジュールに入っていないということでもいいですか。

(事務局)

論点が2点に整理されたので、ハードの考え方は盛り込んでいないです。また、これから先のことなので事務局からこれだけ必要ですという言い方はできませんので、県内の博物館の状況、そういうデータを整理して提示していく中で、県立博物館や名護博物館はこれだけということベースにすれば、このぐらいの大きさの話でというところまで見えてきたりするのかなと思います。次回以降、事務局で県内の博物館の状況を本館、収蔵庫等を含めて別添資料という形で提示して、それを見ながら議論していただくとそういう用意はさせていただきます。

(事務局)

先ほど事務局からスケジュールのお話をしましたが、今後のコロナの状況、23日からは緊急事態宣言も発令されます。現段階では6月20日迄なので6月30日はどうなるか何ともいえない状況もあります。

それで、皆さんにオンライン会議が可能かという調査票の記入をお願いします。それを事務局へ持ち帰りまして、コロナの状況が厳しくなったときに、オンライ

ンでやる場合は、那覇会場、石垣会場など考えようと思っています。どうしても対面的な議論が必要ということになれば日程の順延をしながら、年内には提言を整理したいと思っています。コロナの状況を踏まえながら、早めに日程調整をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

(会長)

ご議論ありがとうございました。今日の会議は以上となります。

(事務局)

会長ありがとうございました。先ほどの調査票を回収させていただきます。

本日は、長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。

それでは、この後、現博物館施設をご案内させていただきます。委員の皆様のお時間等の都合もあるかと思しますので、視察を希望される方を対象とさせていただきますと考えております。

以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。